

2024年 12月に開催しました

主催：原発ゼロ・市民エネルギー委員会



北海道に住む私たちだって黙ってはいられない！

311 子ども甲状腺がん裁判支援・学習会

東京電力福島第一原発事故後、福島県内では400人もの子どもが甲状腺がんと診断され、闘病しています。しかし、県内で小児甲状腺がん問題は、復興に水を注すタブーとされ、原発事故との関連も認められず、当事者は沈黙を強いられ、孤立してきました。しかし、2022年、声を封じられてきた小児甲状腺がん患者の中から、7人の若い当事者が立ち上がり、いま、裁判を闘っています。

子どもたちの声を封じ込める卑劣な構造を打ち破るために、未来の子どもたちのために、黙ってはいられません！裁判の最新情報を学び、私たちにできること、すべきことを行動に移してみませんか？



◇講師プロフィール

地脇美和（ちわき みわ）

愛知県出身。全国転勤の夫と2人暮らし。2013年4月に福島県から北海道へ移住。311子ども甲状腺がん裁判ally、福島原発刑事訴訟支援団事務局長、ALPS処理汚染水差止訴訟事務局

2025 年 5 月に開催しました

まさかの

原発ゼロ・市民エネルギー委員会主催

原発事故から 命を守るための 安定ヨウ素剤配布会



安定ヨウ素剤は、原発事故が起きた時に服用することで放射性ヨウ素による甲状腺がんのリスクを下げることはできますが、原発から5km圏内の自治体にしか事前配布されません。

しかし2013年、泊村の隣にある岩内から集会で飛ばした千個の風船は遠く旭川郊外の東川町まで達していました。泊原発から67kmの札幌圏に住む私たちは、家族を守るために何ができるかを学ぶことが必要です。未来をになう子どもたちの健康を守るために、今できることをぜひ一緒に考えましょう！万が一の時に対処できるよう安定ヨウ素剤の準備をしておきましょう。

◆牛山元美先生のお話

- * 原発事故と放射性ヨウ素
- * 安定ヨウ素剤を備えておくべき理由
- * 安定ヨウ素剤の服用方法

◆一人ひとり問診後、安定ヨウ素剤をお渡しします



＜牛山元美医師プロフィール＞

さがみ生協眼科内科 内科部長・医療生協 理事長、被曝による健康影響を心配する人たちの声にこたえ、福島や全国で被曝についての学習会講師を務め、健康相談会、甲状腺エコー検診に参加。

「3.11 甲状腺がん子ども基金」顧問、「甲状腺がん患者支援グループ あじさいの会」代表。

2025年 7月に開催しました

核のごみ問題について学ぼう

2025年度【幌延サマーキャンプ】

幌延サマーキャンプは、今年で26回目の開催となります。

これまで多くの組合員家族が参加し、地元の方々との交流を通して幌延の現状を知り、核のごみ問題について考えてきました。幌延で寿都・神恵内の核ゴミのことも一緒に考えましょう。多くの皆様のご参加お待ちしております。

豊富町 大規模草地



宿泊場所 セミナーハウス



◇宿泊施設： 豊富町セミナーハウス（天塩郡豊富町西豊富）

◇参加費： 大人： 4,000 円 高校生：2,500 円
中学生：1,000 円 小学生： 850 円

参加費内訳

全国交流会参加費：大人：3,000 円 高校生：1,500 円 中学生以下：無料
食 事 代：一日目夕食、二日目朝食代として 1,000 円
小学生以下は 850 円

【 予定スケジュール 】

1 日目

- 札幌駅北口 7時30分集合
- 全国交流会に参加
- 宿泊先で地元の方と交流会
- *宿泊施設は和室（おふとん有）
- *入浴もできます

2 日目

- 幌延町内チラシまき
- 幌延深地層研究センター見学
日本原子力研究開発機構へ申し入れ
- 札幌着 18時30分（予定）

昨年度の幌延キャンプ 全国交流会の様子



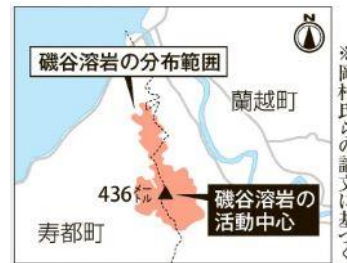
2025年 8月に開催しました

寿都は核ごみ処分不適！ 岡村先生による 論文の解説学習会

核ゴミの最終処分法は第四紀火山の中心から半径 15 キロ以内は最終処分場の不適地であると定めています。岡村先生は寿都東にある磯谷溶岩の年代測定を行い第四紀火山（約258万年前以降に活動が確認され今も活動は続いているとされる）であることを明らかにする論文を日本地質学会に提出、本年 5 月 31 日に受理されました。

寿都町の大部分が処分場不適地ということです。

寿都の火山から核ゴミの危険性について是非学びましょう！



岡村聡（おかむら・さとし）



北海道教育大学名誉教授。専門は地質・岩石鉱物学。84 年、北海道大学大学院理学研究科博士後期課程退学。理学博士。同年から 34 年間、北海道教育大学札幌校にて教育・研究に従事。今年岡村先生が執筆した寿都磯谷溶岩についての論文が日本地質学会により 5 月 31 日付で受理され、論文の正しさが学術面で認められました。

岡村先生と行く 寿都町フィールドワーク

原発ゼロ・市民エネルギー委員会

～新知見「磯谷溶岩」が教える核ゴミ処分の危険性！～

現地の寿都町を訪れ、そして行動する
ポイントは!!

- *実際に「磯谷溶岩」を見る。
- *岡村先生の解説を聞く。
- *寿都町民の方と話す。
- *寿都町の美しい景色と美味しい食べ物を楽しむ。
- *参加のメンバーと一緒に考える
- *寿都、神恵内で核ゴミ最終処分場を作らせない

寿都町を訪れ、地質見学と、現地の方との交流から、核のゴミの地層処分に反対する町民の皆さんの想いを知り、一緒に考え、そして反対の声を挙げていきましょう。



24 年度フィールドワークでの集合写真

～タイムスケジュール～

8:00～札幌駅北口 東側出口付近

「あべ養鶏場えっぐぶりん前」

10:25～現地到着 磯谷溶岩フィールドワーク

12:35～昼食・交流

昼食後に、交流会開催

子どもたちに核のゴミのない寿都町を！町民の会

三木 信香さん

14:00:寿都町散策

14:40:寿都町出発

17:10:札幌駅北口到着予定

270万年前の礫谷溶岩が教える 核ゴミ処分の危険性

生活クラブは「食料生産地北海道と核のゴミは共存できない」として、1985年の幌延問題から、核のゴミ持ち込みに反対する運動を始めました。寿都町と神恵内村を核ゴミの最終処分地選定に向けた概要調査に進ませない、泊原発を再稼働させないための運動をおこなっています。

核ゴミの最終処分法では、約258万年前以降に活動した第四紀火山の中心から半径15キロ以内は最終処分場の不適地として除外することになっています。岡村先生は、寿都町東部にある礫谷溶岩が第四紀火山にあたるとした論文を執筆し、7月17日に日本地質学会より公表されました。寿都町のほぼすべてが不適地ということです。論文に対してNUMO(原子力発電環境整備機構)は、この新知見を全面否定し、是が非でも次の概要調査へ進めるという主張をしました。これらは科学的でも民主的でもありません。

寿都町フィールドワークを開催

8月24日、私たちは岡村先生と、270±60万年前に活動した礫谷溶岩を見ることができる牧場跡地に行きました。地質見学では、流れた溶岩の表面を覆う発泡した玄武岩質の岩片や、大きな安山岩など、山頂部から流れ下った溶岩流地形がわかりました。

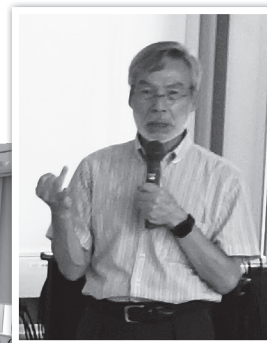
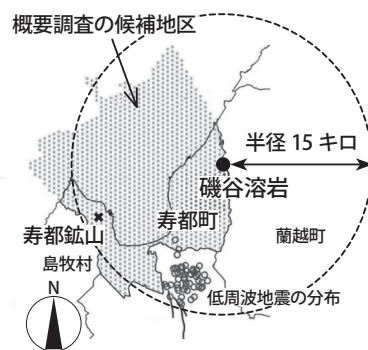


フィールドワークには組合員30人が参加。
左にあるのは大きな安山岩



現地、町民の会の皆さんとの交流会

寿都町のほぼすべてが不適地



岡村聡 名誉教授
(北海道教育大学)

事前に、岡村先生による
論文の解説学習会を開催
(8/3 札幌エルプラザ)

フィールドワーク後の「子どもたちに核のゴミのない寿都を！町民の会」の方々との交流会では、10月に行われる町長選挙や、核ゴミによる地域の分断など、さまざまな話を伺いました。参加者からは札幌に住む私たちができることとして、「寿都のことを伝える」「原発再稼働に反対する」「美しい寿都にまた来よう」などの声がありました。

学習会とフィールドワークを終えて、論文を否定したNUMOに反論を続けている岡村先生への応援の声と、核ゴミ持ち込みに反対する思いが強まったなどの感想が組合員からありました。地域で暮らす人々の繋がりまでも奪う原発によるエネルギーを、私たちは選択することはできません。「泊原発再稼働に反対。北海道に核ゴミはいらない」とこれからも運動していきましょう。

〈原発ゼロ・市民エネルギー委員会 担当理事 小林 恭江〉